地域交流 うれしい実り

ぼうさい甲子園

大賞・山崎高など表彰

神戸市の県公館で13日にあった「ぼうさい甲子園」（1・17防災未来賞）＝毎日新聞社など主催＝の表彰式・発表会には、県内から「ぼうさい大賞」の県立山崎高（宍粟市）、「だいじょうぶ賞」の県立尼崎小田高（尼崎市）、「フロンティア賞」の神戸市立真陽小（神戸市長田区）と学生支援団体tunaguのそれぞれの児童や生徒らが出席した。　【小西雄介、近藤諭】

山崎高は2年連続で大賞を受賞。生徒主体で実施する防災体験活動で、避難所の運営や炊き出し、応急処置などの方法を学んで意識を高めた。体験を元にガイドブックを作成し、高齢者の多い地元自治会や商業施設で配布するなど、地域との交流にも力を入れる。現在は地元産のそうめんを使った非常食の改良にも取り組んでいる。3年生の田中沙弥さん(18)と小坂眞子さん(18)は「今年も大賞を受賞できてうれしい。地域の人にも防災について知ってもらえてよかった」と話した。

尼崎小田高は、医療従事者を目指す生徒らが、高齢者介護施設の避難訓練に参加したほか、2016年の熊本地震被災地でボランティア活動を行い、治療に従事した看護師から体験を聞き取った。

真陽小は、「見て聞いて委員会」（放送委員）が校内放送を活用し、14年10月から昼休みに週1回のペースで防災や復興に関する内容を放送している。地域住民がゲスト出演するなど、地域と連携した活動も特徴だ。

学生支援団体tunaguは、関西福祉大（赤穂市）の学生が中心となり、地元の高校生らも参加し、不登校の子どもらと交流して防災知識の向上などに取り組んでいる。赤穂市では、古民家を活用して災害時に子どもたちが安心して集まることができる居場所を整備した。県立赤穂高3年の三木陽伽（はるか）さん(18)は「これまでよりも地域と密着した活動にしていきたい」と話した。

ぼうさい大賞を受賞し表彰される県立山崎高校の生徒＝神戸市中央区で、猪飼健史撮影